

低価格でも、長持ちする家は手に入る

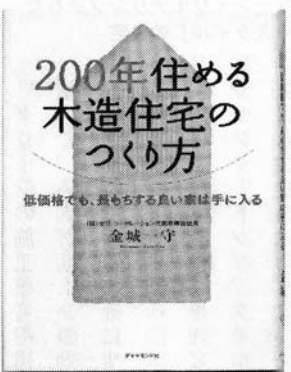
「2000年住める木造住宅のつくり方」

金城一守 著

2000年住宅というコンセプトを、地域密着型の木造住宅建売業者の視点で考えた一冊である。

不動産価格を熟知していればうわ物の住宅は確実に売れると考えていた著者は、5年前、同社の下請発注価格と同価格で販売する競合会社が登場したことに強い危機感を覚える。そこで坪28万8000円の木造住宅を売りぬく一方で、手がけてきた住宅のクレームを全て公開するという捨て身の戦法を取ることによって品質を向上させる。

長寿命住宅に向けての品質向上の第一歩は、雨漏りのクレームの改善であると説く。実際、隣家と近接したまちなかの狭小地住宅においては、補修不可能な場所に開口部を設けていること



ダイヤモンド社
1575円(税込)

が多い。これでは開口部の隙間から入り込む見えない雨漏りに対応できず、同社では金属サイディングの内張り工法を行うことで品質向上を果たす。

本書の舞台である京都では開口部の狭い高断熱・高气密の大半が不評である。歴史情緒にあふれた古民家の改修を数多く手がける中で、長寿命住宅にふさわしい構造をもった住宅は、「木が呼吸できるだけの通気性をもった木造住宅」であるという確固たる信念を持つ。

木という生き物を使って家を建てるからこそ住宅づくりは奥が深い。長寿命の住まいづくりには、各建材の経年劣化を考えると多くの課題が残されており、安くて質のいい住宅の追求に終わりはない。